

# 子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

平成28年度愛知県「青少年防災キャンプ推進事業」

愛知県教育委員会

## 【事業のポイント】

- 自主防災会が中心となり、実際に重要な避難場所となる小学校において児童・保護者・地域・行政が連携・協働して防災キャンプを実施することで、防災教育の推進のみならず、様々な場面で活用可能な地域プラットフォームを構築する。
- 子供たちが、地域住民らと共に避難所運営を実施することで、自主性や目的意識を高め、社会の担い手としてのスキルを習得する。
- 事例発表会を開催したり事業報告書を配布するなど、モデル事業の成果や課題を県内市町村に周知する。



避難所運営(地域住民の受け入れ・把握)

## 1. 企画

### (1) 事業実施の背景

愛知県は、東海地震の地震防災対策強化地域、南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されている市町村を多く抱え、過去に内陸型地震である濃尾地震、三河地震による甚大な被害を受けた地域である。巨大地震発生時には、最大38万棟の建物被害、2万3,000人の死者数を想定しており、揺れの他、津波、液状化、浸水、急傾斜地崩壊等、様々な被害が想定されている。愛知県では、減災目標の達成に向けてアクションプランを策定し、県民に対する防災意識の向上を図っているところであるが、地域の実情に即した防災・減災対策は、各市町村の大きな課題となっている。平成24年度から、県教育委員会では、子供たちの体験型防災学習と地域の多様な機関等の連携促進を目的として、県内の7市町で防災キャンプを実施してきた。その中で、学校教育と社会教育、家庭教育の連携や、子供たちが支援者となり得るための防災学習等に取り組んできたが、連携への課題は多く、地域プラットフォームの形成が望まれる地域は多い。

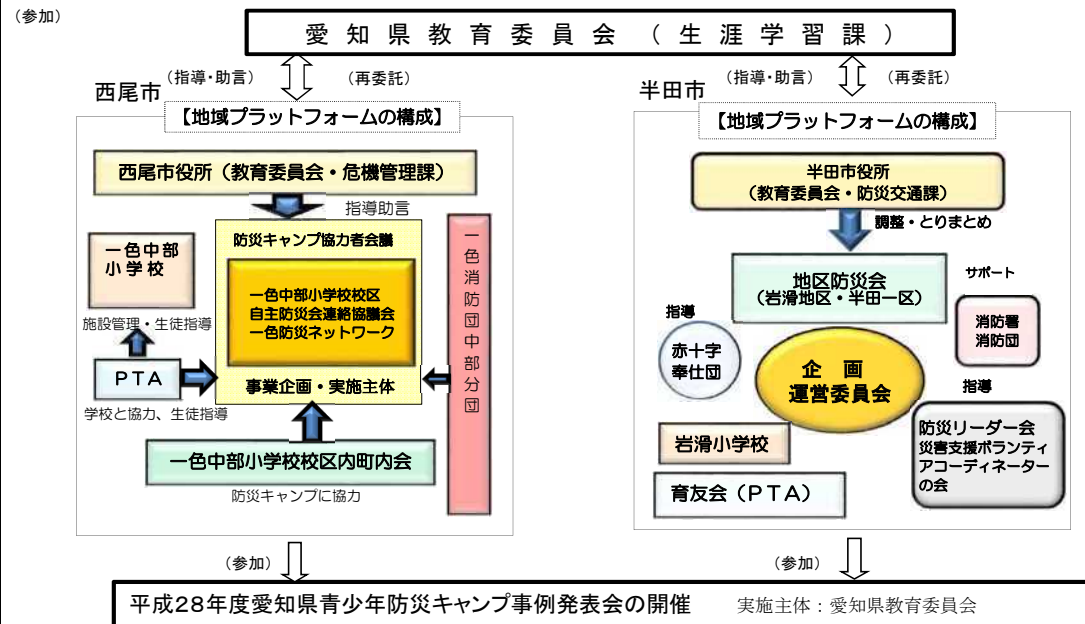
### (2) ねらい

平成28年度は、地域住民による自主防災会の活動が活発な2市に本事業を委託することとした。自主防災会を核として、学校、保護者、行政(教育、防災)等が連携し、学校を避難所とした防災キャンプを実施することにより、関係者の避難所運営のスキル習得と子供たちの防災意識の向上を図り、地域住民、学校、子供、行政等が顔の見える関係をつくり、継続的に地域課題に取り組むことができる新たな地域プラットフォームの構築を目指した。

さらに、防災キャンプや地域プラットフォーム構築の成果を県内全域に広めることをねらいとして、県事業として、防災キャンプ事例発表会を開催した。

## 2. 実施概要

### (1) 地域プラットフォームの構成



(2)具体的な取組の概要

1 西尾市一色中部小学校区「地域プラットフォーム」の取組

①5年生防災授業	平成28年9月8日(木) 9日(金) (西尾市立一色中部小学校)
西尾市一色中部小学校では、防災キャンプに参加する5年生児童を対象として防災授業を実施し、講師の指導のもと、校区内のハザードマップを作成した。また、自宅から避難所への避難経路の確保を目的とした現場調査を地域住民と共に実施し、自分たちが住んでいる地区の災害について考えた。	
②防災キャンプ	平成28年9月24日(土)～25日(日) (西尾市立一色中部小学校)
活動趣旨	一色中部小学校は、被害想定地域内にあるが若干標高が高く、浸水域から外れているため、被災時には重要な避難場所・防災拠点として運営される予定である。しかし、まだ小学校での避難所運営の実績がないため、今回の事業を通して小学校を避難場所と想定した防災キャンプを初めて実施する。宿泊を伴う避難訓練を子供たちに体験させるとともに、地域主体で活動している地区の自主防災会が、小学校を舞台とした避難所運営を行い、地域の人たちがそれぞれの立場で避難所運営のスキルを得るとともに、学校・防災担当行政・消防団・保護者等と新しいつながりを構築することを目指す。
参加範囲	一色中部小学校区5・6年生及びその保護者と地域住民
参加人数	88名(5・6学年児童44名、教員・PTA22名、地域住民17名、市役所職員等その他5人)
プログラム	
9月24日(土)	
14:15	開会式
14:35	オリエンテーション(防災ネットワーク) 日程、活動内容確認、防災講話
14:45	消防団PR(雨天で放水訓練ができなかったため)
15:00	訓練開始(班ごとにローテーションし、下記の訓練を実施) ・テント設営・医薬品車いす搬入(防災倉庫)・特定小電力無線の使い方・トリアージ練習・非常食や避難物資の在庫確認・簡易トイレ組み立て・避難者の受け入れ対応・避難所簡易図面(配置)を作成・高齢者、妊婦、車いす体験・防災すごろく・VRスコープ(一色地区津波被災)体験・夕食準備 等
18:50	夕食(カレーライス)
19:15	○5年生 夜間移動訓練(宿泊しない児童もこの訓練のみ全員参加) 4グループに分かれ、校区内の夜間の危険な箇所を探索、写真撮影 ○6年生 救助訓練(宿泊者のみ) 三角巾等身近な物を使ったギブス、毛布担架、AED、ハンドマッサージ
21:00	就寝準備 体育館(避難所)にて自分達の寝場所作成 防災マット、毛布、パーテーションの設置 段ボール簡易ベッド作成
21:30	班ミーティング・就寝
9月25日(日)	
6:00	起床、ラジオ体操、朝食(アルファ化米、カップみそ汁)
7:45	反省会(2日間の振り返り)
9:00	校区防災訓練開始 児童は指導者として、前日学習した内容(毛布担架、ギブス、AED、トイレ組立等)を参加者に指導。参加者を避難者に見立て、ハンドマッサージを行う。
10:30	解散
③全校防災集会	平成29年2月6日(月) (西尾市立一色中部小学校)
1～6年の各学年で学習した防災授業を発表し合い、自分たちの学校が避難所に指定されている事について考えることにより、災害に対する危機意識の向上を図った。また、防災講話などを聞き、防災活動や地域との連携の重要性について学んだ。	



AED訓練



## 2 半田市岩滑地区「地域プラットフォーム」の取組

①事前説明会	平成28年7月9日(土) (半田市立岩滑小学校)
7月22、23日に開催される防災キャンプに参加する児童、保護者、地域住民に対して事前説明会を開催した。	
②防災キャンプ	平成28年7月22日(金)～23日(土) (半田市立岩滑小学校)
活動趣旨	半田市は、知多半島の中央に位置し、衣浦湾に面した市で、「過去地震最大モデル」での想定は、震度6弱とされている。岩滑地区は内陸部であるため、液状化現象は起こらないとみられており、やや高台にある岩滑小学校は避難所となっている。これまでも活発に自主防災活動が行われていた岩滑地区で、自主防災会が地域住民や行政と連携して児童とその保護者を対象とした防災キャンプを実施することで、児童が災害時に自分たちができる事を考えさせるきっかけを与えるとともに、地域全体の役割意識の向上を目指す。
参加範囲	半田市立岩滑小学校1～6学年児童とその保護者、地域住民 (小1～小4は保護者同伴)
参加人数	120人(小学生43人、保護者18人、高校生5人、地域住民54人)
プログラム	
7月22日(金)	
14:30	地震発生(想定) 避難開始 (通学路危険箇所の確認)
15:00	開所式
15:30	通学路危険箇所マップ作り (避難時にチェックした危険箇所をグループで確認、マップ作成)
16:45	避難所運営委員会 (グループリーダーに避難所ルールを説明)
17:00	炊き出し体験・夕食(カレーライス)・応急給水栓から水を汲み、運ぶ体験
18:40	応急処置法講座(三角巾・ロープを使用し応急対処を学ぶ)
19:40	煙に関する講座・濃煙体験 (煙からの逃げ方を学ぶ)
20:30	防災クイズ
21:00	居住スペース作成体験(簡易間仕切り段ボールで作成)
22:00	消灯
7月23日(土)	
6:00	起床、運営委員会、ラジオ体操
6:20	朝食(班毎で食糧配分の検討)、片付け
8:00	放水体験、防災倉庫見学、発電機の起動体験等
9:30	2日間の振り返り、まとめ
10:00	発表 防災監より総評
10:20	閉所式
③岩滑地区 防災講演会	平成28年11月5日(土) (半田市立岩滑小学校)
防災キャンプを振り返り、今後の防災活動につなげると共に、地域全体の防災意識の向上を図ることを目的として、児童、保護者、地域住民を対象として防災講演会を実施した。	



応急給水栓から水汲み体験

## 3 愛知県の啓発活動

愛知県青少年防災 キャンプ事例発表会	平成29年1月27日(金) (愛知県自治センター)
<p>○基調講演「地域と連携したこれからの防災教育」 講師 滋賀大学教授 藤岡 達也 氏</p> <p>○シンポジウム「地域を活かした『生きる力』を育む防災キャンプ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例発表           <ul style="list-style-type: none"> <li>半田市岩滑地区防災キャンプ</li> <li>西尾市一色中部小学校区防災キャンプ</li> </ul> </li> <li>・意見交換 コーディネーター 藤岡 達也 氏 パネリスト 赤根 進治 氏(半田市立岩滑小学校 教諭) 廣江 好矩 氏(半田防災リーダー会) 本田雄一郎 氏(西尾市立一色中部小学校 教諭) 久保田芳道 氏(一色防災ネットワーク 代表) 佐藤 のぶ 氏(愛知県防災局防災危機管理課 主査) 富田 正美 (愛知県教育委員会生涯学習課 課長)</li> </ul>	
	
講師 藤岡 達也氏	シンポジウムの様子
<p>2市で実施した防災キャンプの取組を通じて、青少年の防災教育と地域プラットフォームの構築を促進し、社会全体での防災教育の取組を県全域に普及するための事例発表会を開催し、防災教育の在り方について考えた。2市の事例発表内容を基に、「地域を活かして子供たちの『生きる力』をどのようにして育むのか」をテーマとして意見交換がなされた。パネリストや参加者から「避難所として地域の拠点となる学校の重要性が再認識できた」「学校と地域の連携の意識が高まった」「避難所体験では、子供たちが守られるだけでなく、自分で何ができるのかが重要だと思う」等、様々な意見が出された。</p> <p>最後に、講師の藤岡先生より、「体験活動の防災キャンプは、今日重視されている持続可能な社会を築くESDのねらいとなる、自然と人間、人間と人間、人間と社会の繋がりの大切さを実感できるものであり、ここに自助・共助・公助の意義がある」と総評があった。</p>	



(3)実績スケジュール	
月 日	内 容
6月中旬	(半田市) 事業日程の調整及び運営体制の検討
6月28日	(半田市) 半田市岩滑地区防災キャンプ第1回企画運営委員会
7月9日	(半田市) 半田市岩滑地区防災キャンプ事前説明会
7月20日	(西尾市) 第1回防災キャンプ協力者会議(キャンプの企画内容について)
7月21日	(半田市) 半田市岩滑地区防災キャンプ第2回企画運営委員会
7月22～23日	(半田市) 半田市岩滑地区防災キャンプ
8月10日	(西尾市) 第2回防災キャンプ協力者会議(キャンプの企画内容について)
9月8・9日	(西尾市) 5年生防災授業 防災マップ作り基礎授業、校区内実地調査
9月26日	(半田市) 半田市岩滑地区防災キャンプ第3回企画運営委員会
9月21日	(西尾市) 第3回防災キャンプ協力者会議(防災キャンプ最終打ち合わせ)
9月24～25日	(西尾市) 一色中部小学校区防災キャンプ
11月5日	(半田市) 岩滑地区防災講演会
平成29年1月10日	(半田市) 岩滑地区防災キャンプ第4回企画運営委員会
1月27日	(愛知県) 平成28年度愛知県青少年防災キャンプ事例発表会
2月6日	(西尾市) 全校防災授業 全校防災集会

### 3. 成果と課題

#### (1)成果

本県では、「青少年の体験型防災教育」及び「地域の絆(きずな)づくり」を目的に、各地域において多様な団体・行政・学校・家庭が連携を図りながら当事業を推進してきた。事業を実施する中で、学校・行政・地域との連携の必要性が改めて確認される一方で、連携の難しさという課題も挙がっていた。今年度は、自主防災会が中心となり、被災時に実際に避難所として運用される2つの小学校において、初めて地域住民、児童及びその保護者で、宿泊を伴う避難所の運営を実施した。その結果、両地区共に、地域と学校、更には教育委員会と防災行政が繋がる絶好の機会を得ることができた。

#### 【事例発表会 参加者意見(抜粋)】

- ・よりしっかりした防災対策をとるためには関係機関の連携が重要であり、その連携のつなぎ役として行政の役割は大きな意味があると感じた。
- ・これらの防災の取組が、学校での幅広い教育活動にも生かせること(生かしていること)が他の学校や地域に伝わると、もっとこのような取組が広がるのではないかと感じた。
- ・事例発表を見て、本当にたくさんの大人が関わっていると感じた。子供たちは、多くの大人たちに守られて支えられており、一人一人の命の重みがあることを実感できる貴重な機会となったと思う。それが防災教育の出発点。

#### (2)課題

平成24年度以降、県内の9市町で防災キャンプを実施し、様々な地域特性を考慮した防災モデル事業を基盤とする防災学習等が少しずつ広まってきていると思われる。しかし、その成果や取組状況が全县に広まっているとは言い難い。各市町村への聞き取りや、事例発表会でのアンケート結果によると、防災キャンプの取組について知らなかったという人が予想以上に多い。また、防災キャンプの実施市町村に偏りがあり、沿岸部の地区に比べて内陸部の地区では防災キャンプを実施した市町村が少ない状況にある。

そこで、今後は県内全地域に幅広く防災キャンプの取組について広め、県内全域の防災意識を高めるため、今までに防災キャンプを実施したことがない内陸部の地域にもこの取組を広げていく予定である。そして、それぞれの地域の特性を生かした取組について、実施に向けた準備過程や、実施した成果を広く全县に発信することにより、全县に防災キャンプの裾野を広げていくことを目指す。

また、「防災」という切り口から構築されたプラットフォームを様々な分野において活用し、子供たちが直接地域と関わる機会を作ることは、子供たちの「生きる力」を育むことに繋がる。そこで、県としては単発的な事業のための連携に終わらせることなく、モデル地区において構築されたネットワークをさらに広げるとともに、引き続きプラットフォーム事業の効果を広く県下全域に紹介していく必要があると考える。

### 4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

- ・ 地域住民や多様な機関が関与できる「防災」を通じた新たな地域プラットフォームの構築の推進
- ・ 構築した地域プラットフォームの活用
  - 地域住民の学校行事への参加・交流
  - 学校としての地域行事への参加・交流
  - 地域合同防災演習等、行事の継続、発展を目指す
  - 小学校での防災クラブ設立による、防災の取組の継続

これらの取組を進め、地域プラットフォームとして、地域全体で日常的に地域課題について考え、解決できるようにしていきたい。

### 5. 団体プロフィール

愛知県教育委員会生涯学習課  
 青少年教育・女性指導支援グループ  
 〒460-8534  
 名古屋市中区三の丸3丁目1番2号



教育は 未来へつなぐ 希望の輪